

脱炭素 (ゼロカーボン) 経営 に向けて… **KESの活用を！**

2023. 3. 22

環境マネジメントセミナー・京商エコサロン
KESリフレッシュセミナー

特定非営利活動法人KES環境機構

CO2排出影響評価(KESシステムの活用)

1. CO2排出実態の把握とCO2排出項目の抽出（環境影響項目）

どのエネルギー源を

どの活動、製品及びサービスのために

どの設備、機器、車両の使用を通して

どれだけ消費し

その結果、夫々どれだけのCO2を排出しているのか？

2. CO2排出影響評価（環境影響評価）

CO2排出影響項目による 環境、社会、組織への影響を評価する。

3. 著しいCO2排出項目（著しい環境影響項目）

CO2排出影響項目のうち、

それによる影響が著しいと考えられるものを特定し、優先順位付けし、削減目標或は管理の対象とする。

4. CO2排出削減目標及び削減計画の決定（環境改善目標及び計画）

《考慮すべきポイント》

(1) 経営課題や事業戦略

(2) 組織にとってのリスク（取り組むリスク・取り組まないリスク）やチャンス

(3) 利害関係者のニーズや期待

(4) 技術的・経済的制約にもとづく実現の可能性

CO2削減目標・計画・施策づくりの視点

(1) 活動、製品及びサービスやそのあり方を見直す？ 廃止する？

「省エネ」と「脱炭素」の違い…「エネルギー ⇒ゼロ」ではなく「排出係数 ⇒ゼロ」

* それらには CO2を出してまでの価値があるのか？

それらは CO2を出さずに実行・実現できないのか？

(2) エネルギー源を変更する或は調達先を替える…が戦略の中心

a. エネルギーの「電化率」が限界まで達しているのなら、
現実的には、より排出係数の小さな電力へシフトするしかない？

一方、「新電力」からの電力調達に当たってはリスクの検証が必須！

b. 再エネ(太陽光)による自家発電で賄える電力の用途と電力量を把握しておく。

※組織の死活に関わる電力の(比較的)不安定な電源への依存は慎重に。

(3) 設備、機器、車両を新たに導入する？ 取り替える？ 使用を取りやめる？

* 省エネの延長線上

(4) 短期と中長期の両睨み (中長期計画)

すぐに取り掛かるべきものとジックリ戦略を練るべきもの。(自社なりのシナリオ)

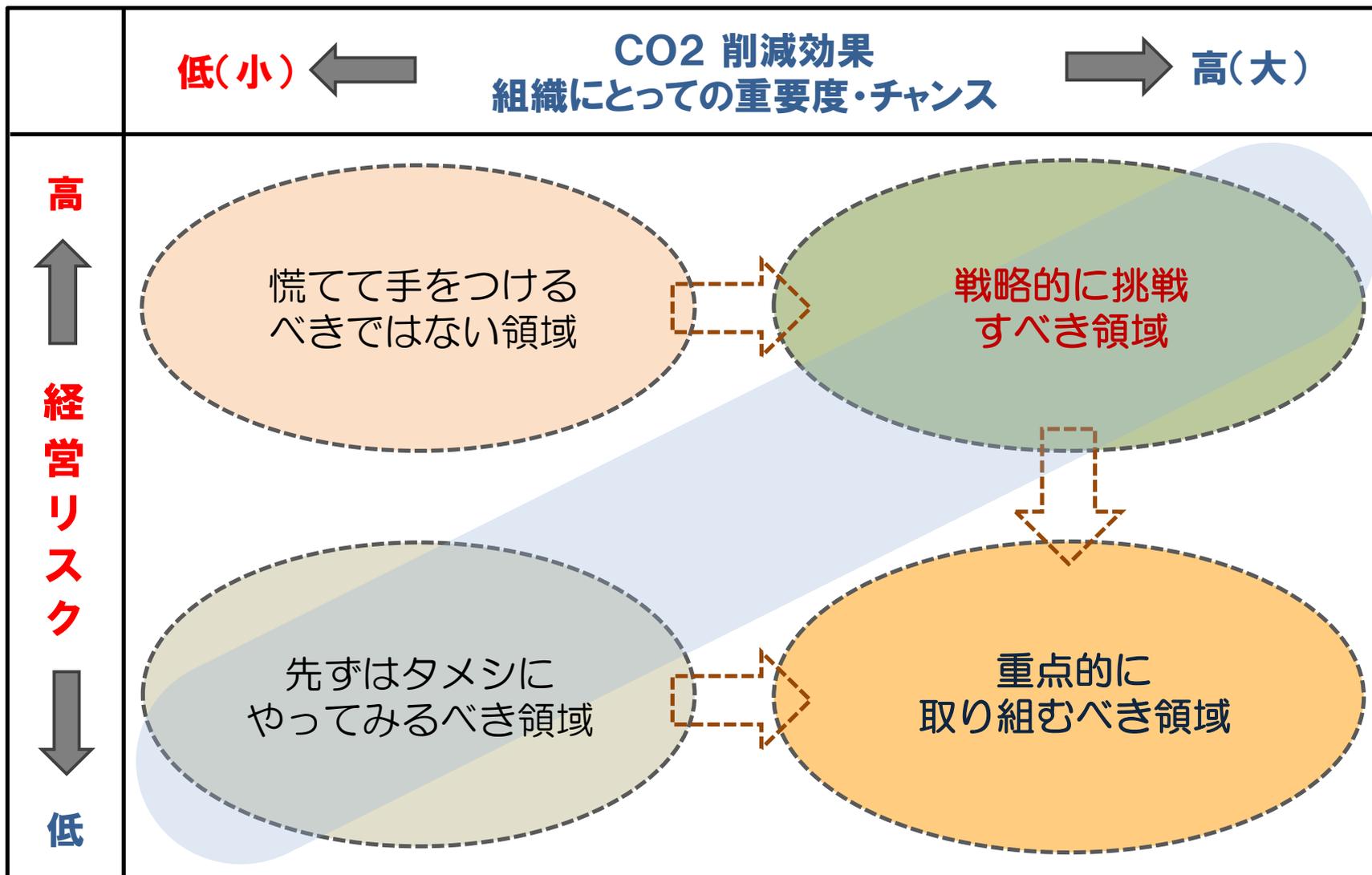
(5) コストの視点を忘れずに。

省エネはコスト削減に結びつきやすいが、脱炭素は難しい。

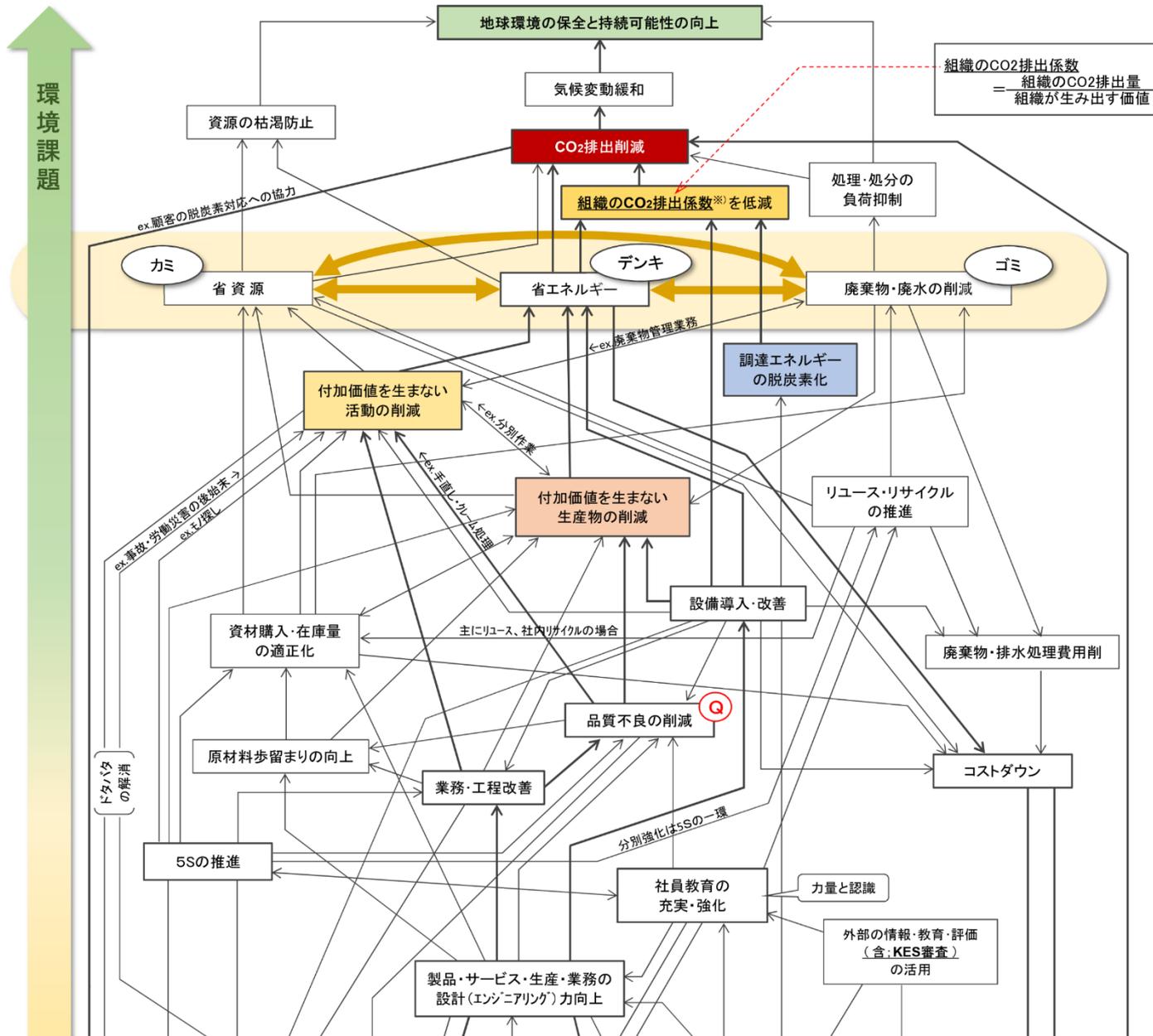
削減コストを何で賄うのか？…クレジットや補助金の活用も視野に。

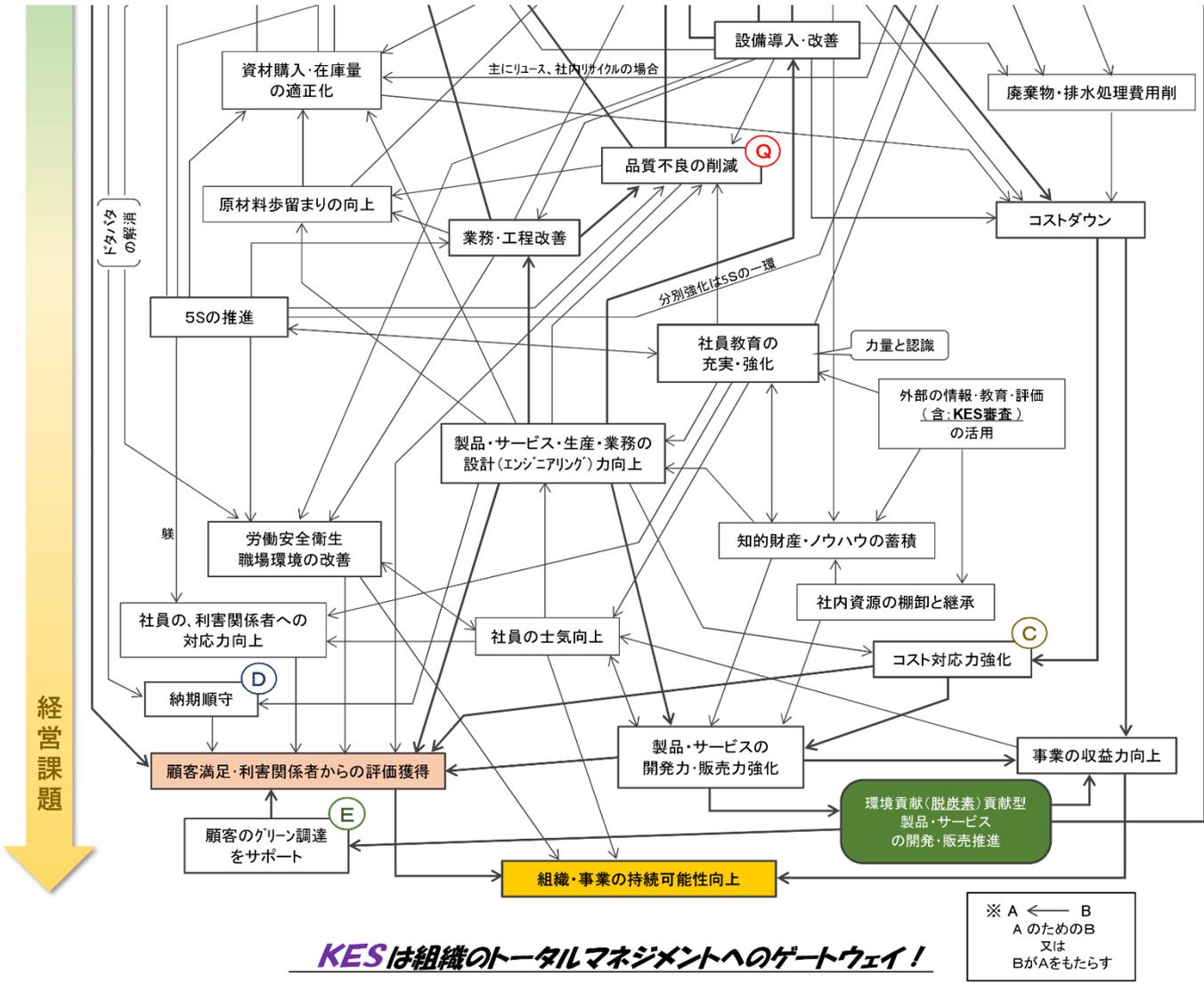
(6) 出来れば…新たなビジネスチャンスに繋げることもめざす。

リスクとチャンスにもとづく脱炭素戦略の実践



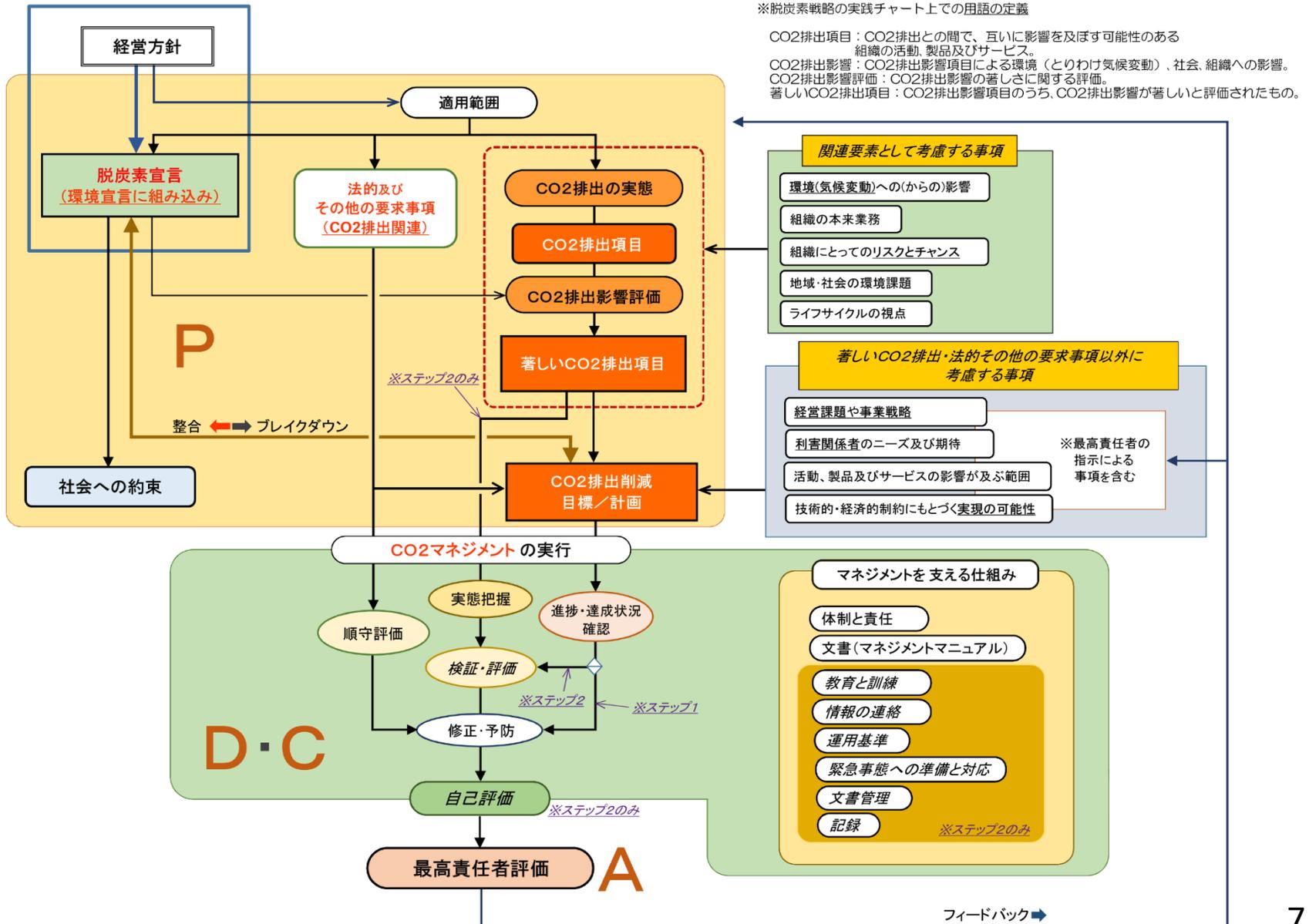
改善目標及び施策相互の相関と連鎖 (CO2 排出削減 に着目して)





KESは組織のトータルマネジメントへのゲートウェイ!

“脱炭素”戦略の実践チャート (KESシステムの活用)



KESのシステムを
組織の脱炭素戦略のための
プラットフォームとしても御活用ください

KES環境機構



ありがとうございました。